

平成 28 (2016) 年度 追手門学院中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

学院教育理念「独立自彊（自ら努め励む）・社会有為（世のため、人のために尽くす）」を学習・生活・行事・HR・クラブ活動など、すべての教育活動の基軸に据えて、「自己肯定感」と「関係性の力」をキーワードに人間形成教育を実践する。
そして、自主的自立的精神と確かな個性をもち、同時にまた、他者や社会のことを考え、豊かな社会性を持つ人物の育成を目指す。

2 中期的目標

1 教育理念に基づく教育推進

- (1) 教育理念に沿った学年・クラス・クラブの「行動」目標を設定し、その達成に努める。
年度当初に中高全学年・クラス・クラブで教育理念を踏まえた「行動」目標を立て、実践に努める。
- (2) 「志の教育」（自校教育を含む）・「心の教育」・「キャリア教育」のさらなる充実を図る。
私学・追手門学院にとって、建学の精神を踏まえ、教育理念に基づく「志の教育」「心の教育」の実践は使命である。また、「キャリア教育」を推進するための独自シラバスを充実する。
- (3) 「総合学園」として「一貫連携教育」を推進する。
学院と連動して、「一貫連携」を推進する。
中学校では、追手門学院小学校の授業見学や教員交流、施設見学などを通して、追小教育について学び、小中連携の充実化を図る。
高校では「高大」の連携の意義を確認し、育成すべき人物像、目指すべき教育を明確にし、学院として「教育」の流れ、「人」の流れを強化する。特にスポーツコース・表現コミュニケーションコースを軸にして展開する。

2 「学習力」の強化

- (1) 教員の「教育力」向上に取り組む。
生徒の学力向上、進路実現のためには、教員の教育力（教科指導力・生活指導力）の向上は必須であり、その結果、生徒の満足度が上がれば、さらに教員の意欲も高まるという好循環が期待される。そのために、個人的・組織的に研修の機会また研修時間を確保して学校全体で教育力の向上に取り組む。特に生徒が主体的に思考し、判断し、協働的に学ぶといった要素を含んだ「新しい学び」に全ての教員が取り組む。
- (2) 生徒の「学力」向上に取り組む。
高校では、特選 S クラスの充実を図り、これを機軸に難関国公立大学・国公立大学進学シフトを強化する。また、I 類クラス・II 類クラス・スポーツコース・表現コミュニケーションコースの充実を努め、生徒の第一志望進路実現を目指す。
中学校では S クラスにおいて難関国公立大学・国公立大学進学シフトを強化する。
そのために本校独自の 3 年間・6 年間を見通した「合格ストーリー」や「学力向上メソッド（反復徹底学習）」を有効に活用する。

3 特色ある教育の推進と充実

- (1) 「総合学習」のさらなる充実を図る。
中学年代においては、「考える力」「伝える力」を涵養することは、将来を豊かに生きる力として大切であり、そのため「総合学習」の新しいプログラムを確立する。
高校年代においても、「思考力」「コミュニケーション力」「創造力」「判断力」等を涵養することは、将来を豊かに生きる力として大切であり、不可欠である。そのために、総合学習の時間に「命の教育」や「食育講座」、「環境講座」等を設け、これから先の時代に必要とされる「答えが一つではない問い」を主体的に考える力を養成する。
- (2) 「国際教育」の系統化を図り、より充実したプログラムの作成に努める。
中学校では、国際教育の学習プログラムを整備し、実践に努める。また、系統立てたプログラムによって生徒の英語コミュニケーション力の向上を図る。中学 3 年次における「ニュージーランド修学旅行」をさらに充実する。
高校では国際教育を通して涵養すべき力を養成するための学習プログラムを整備し、実践に努める。3 ヶ月間の中期留学を含む各種の留学制度を活用し、グローバル化に対応した力をつけていく。特に日本についての理解を深めること、また世界について学ぶこと、併せて、英語コミュニケーション力の向上を図る。「ユネスコスクール」の取り組みを、他校とも連携を図りつつ、実質的に展開する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 28 (2016) 年 11 月実施分]	学校関係者評価委員会からの意見
<p>【結果】 ○生徒 ・友人関係・担任指導の満足度はさらに高くなり、学校生活についても高い満足度である。クラブ活動の満足度も高くなった。</p> <p>○保護者 ・担任指導が最も高く、友人関係・学校生活もさらに高くなった。 ・進路生き方指導・国際教育充実の満足度がかなり高まった。</p> <p>○教員 ・国際教育の充実やアウトプット教育が高くなった。</p> <p>【分析】 ・保護者評価は、大半の項目で昨年より向上した。学校生活全般で満足度は高いといえる。「教員相談対応」や「問題を見逃さず対応」の項目が高くなったのは学校としての成果といえる。「アウトプット教育」が高まったのは、「新しい学び」に取り組んでいる結果であろう。しかし、大学受験対応を含む学習分野においては、更なる向上が必要である。 ・入学を勧める比率は昨年低下したが、今年度は 2.2 ポイント向上し、回復させることができた。</p>	<p>学校関係者評価委員会を 7 月の 1 回目は個別聴き取りで実施し、2 回目の委員会は 2 月 25 日に実施した。 <評価委員会の意見は以下の通り> 【経営目標】 ・全体として妥当であるという意見をいただいた。</p> <p>【重点課題】 ・中学募集は近年確かに難しくなっている。昨年より増えたのは取り組みの成果であり、偏差値レベルも上がっている。 ・教育力について、母校が新しい取り組みを進めていることには誇りを感じている。 ・英語のオールイングリッシュの取り組みは素晴らしく、さらに発展させてほしい。 ・卒業公演も見せてもらったが、「表現コミュニケーションコース」の取り組みは大変良いと思う。 ・今年も「将来を考える日」に関わらせていただいたが、この取り組みは今後も継続してほしい。 ・生徒・保護者アンケートをみると、全体として満足度は上がっている。昨年少し気になった「クラブ活動」も肯定的評価が増えた。 ・学校は放課後のゼミ活動やクラブ活動にも力を入れ、様々なことに取り組んでいる。しかしそのことを保護者が十分にわかっていないのではないかと思う。メール配信やHPをもっと有効に使って、学校からのいろんな情報が保護者に届くようにすべきではないか。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学院教育理念に基づく教育推進	<p>(1) 学院教育理念の実践</p> <p>①中高各学年及びクラブの取り組みの推進</p> <p>②「志の教育」の推進</p> <p>③「一貫連携教育」の推進</p> <p>④大手前中高との共同研究を推進</p>	<p>(1) 学院教育理念の実践</p> <p>①教育理念を常に意識し、学年・クラス・クラブ「実践」の目標達成に努める。</p> <p>②「志の教育」「心の教育」「キャリア教育」を各学年ともHRや総合的な学習の時間で実践し充実を図る。</p> <p>③高大連携ではAP科目の受講、スポーツコースでの連携の進展を図る。小学校との連携を行う。</p> <p>④「新しい学びの成果」を広く発信する準備として、両中高で公開授業・教科研究会を行う。</p>	<p>(1) 学院教育理念の実践</p> <p>①1学期当初に「実践」目標を一覧表にして、共有化を図る。</p> <p>②自校教育HRを実施する。高2の3学期に「第一志望宣言」を実施する。</p> <p>③AP科目を内部入学予定者が受講し単位を取得する。スポーツコースでは合同練習の機会を設ける。中1対象に小学校からの出前授業を実施する。</p> <p>④両中高での研究会の実施。両中高の将来構想委員会を月1回のペースで実施する。</p>	<p>(1) 学院教育理念の実践</p> <p>①教育理念に沿った「キャリア教育」の取り組みが意識され、目標達成への意識は高まっている。</p> <p>②全校自校教育HRを実施し、高2の3学期に「第一志望宣言」を実施するなど、「志の教育」「心の教育」「キャリア教育」の充実が図られた。</p> <p>③AP科目を延べ17名が受講し、追手門学院大学への進学者は32名であった。合同練習を実施した。高大連携の必要性・有効性についての理解は進んでいる。小学校長による中1対象の国語の特別授業を実施した。</p> <p>④両中高での教科研究会を実施し、「新しい学び」への取り組みが推進された。</p>
2 「学力」の強化	<p>(1) 教員の教育力向上</p> <p>①個人的取り組み</p> <p>②組織的取り組み</p> <p>③教員育成部の取り組み</p> <p>(2) 生徒の学力向上</p> <p>①「学力」向上の取り組み</p> <p>②「学習」システムの整備</p> <p>③英語4技能の取り組み</p> <p>④組織的取り組み</p>	<p>(1) 教員の教育力向上</p> <p>①夏季・冬季の予備校主催の外部研修やAL型授業などの研修に参加し、教科での共有化を図る。</p> <p>②授業アンケートを実施しその振り返りシートを作成する。授業見学週間の改善を行い、授業力のレベルアップを図る。また、授業アンケートで評価の高かった教員に学ぶ授業力向上研修を実施するなどに取り組む。</p> <p>③AL型授業の研修や実践については、公開授業など「授業モデル」の研究・実践をすすめる。</p> <p>(2) 生徒の学力向上</p> <p>①学力向上を図り、前年度以上の「国公立大学」「関関同立」合格者を目指す。</p> <p>②学力向上メソッド、合格ストーリーの具体的活用を図る。</p> <p>③英語4技能については中学、高校ともに推進する。</p> <p>④「コース教育推進委員会」において、I類、SSコースでの取り組み内容を検討、実施する。</p>	<p>(1) 教員の教育力向上</p> <p>①予備校研修への年1回の参加。小学校の授業見学への参加。</p> <p>②授業アンケートを年2回実施する。年3回模試の振り返りを行い教科研究会を実施する。年3回の授業見学週間を設け互いの授業見学を実施する。</p> <p>③両中高の教科研究会での公開授業、実践報告会を実施する。</p> <p>(2) 生徒の学力向上</p> <p>①「国公立50名合格」「関関同立150名」を目標とする。</p> <p>②「学力向上メソッド」を活用した授業を実践・検証を行う。</p> <p>③パワーイングリッシュ、アクティブイングリッシュを実践する。</p> <p>④定期的なコース会議、進路検討会議を実施し、指導の充実を図る。</p>	<p>(1) 教員の教育力向上</p> <p>①予備校研修への参加は、年2回、37名が積極的に参加し、各教科会で内容を共有化した。小学校の授業見学には4名が参加。</p> <p>②授業アンケートを全教科で実施し、非常勤講師も含めてその振り返りを行った。さらには授業アンケート結果を教科で議論し、課題を確認した。</p> <p>③両中高教科研究会で公開授業を行ない、AL型授業などの「新しい学び」の取り組みが推進され、その成果がアンケートの数値にも表れている。</p> <p>(2) 生徒の学力向上</p> <p>①国公立大学47名合格、関関同立177名合格となり、新しい授業モデルの取り組みなどの成果が出たものと評価できる。</p> <p>②新たな授業モデルについて「ラーニングスペースを考える会」の発足など組織的な取り組みに向けての準備が進み、10年間の取り組みをまとめることができた。</p> <p>③SSコースでのオールイングリッシュ、Sコースでのパワーイングリッシュや高校での英語4技能の学習が進展している。</p> <p>④コース会議、進路検討会議を学期ごとに開催し指導の充実に取り組んだ。</p>
3 特色ある教育の推進と充実	<p>(1) 特色ある教育の推進</p> <p>①「新しい学び」のあり方の研究と構築</p> <p>②「アウトプット教育」「国際教育」の充実</p> <p>③「サイエンス教育」「ICT教育」の開発・実践を図る</p> <p>(2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実</p> <p>①スポーツコースの充実</p> <p>②表現コミュニケーションコースの充実</p>	<p>(1) 特色ある教育の推進</p> <p>①「未来教育プロジェクト」において新しい学びの大枠を構築する。</p> <p>②「アウトプット教育」「国際教育」を日常の教育活動の中で進める。</p> <p>③中学の「サイエンスキャンプ」の充実やサイエンス部の発足などについても検討し、サイエンス教育やICT教育の向上・充実を図る。</p> <p>(2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実</p> <p>①スポーツ総合学習において指導内容の充実を図る。</p> <p>②公演等を通して、表現科の学習活動の充実を図る。</p>	<p>(1) 特色ある教育の推進</p> <p>①学校の将来構想の構築のための「未来教育プロジェクト」会議を週1回実施する。</p> <p>②生徒発表の機会やユネスコスクールとしての活動を推進する。</p> <p>③授業時間外での科学学習の場としてサイエンスクラブの設置を検討する。</p> <p>(2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実</p> <p>①スポーツ総合学習の学習内容の充実を図りスポーツクラスの保護者満足度80%を目指す。</p> <p>②講演活動を充実し、表現コミュニケーションコースの保護者満足度80%を目指す。</p>	<p>(1) 特色ある教育の推進</p> <p>①週1回「未来教育プロジェクト」会議を開催し、生徒を主体とした「新しい学び」のあり方について検討した。また、「ラーニングスペースを考える会」では具体的な授業モデルの検討を行った。</p> <p>②今年度もクエストエデュケーション全国大会出場、ESD体験発表会に参加するなど「アウトプット教育」「国際教育」ともに取り組みが進んでいる。</p> <p>③中学でサイエンスクラブが発足し、自然科学を学ぶ学習環境が前進し、自然科学に対する生徒の関心の高まりが見られる。「ICT」教育推進については、クラッシーの活用が進むと共に、次年度から「すらら」を導入し「ICT」教育の一層の進展を図ることとなった。</p> <p>(2) 「スポーツコース」「表現コミュニケーションコース」の充実</p> <p>①スポーツコースの保護者満足度80.9%であった。</p> <p>②「自画像公演」「アトリエ公演」「卒業公演」を実施した成果もあり、表現コミュニケーションコースの保護者満足度88.8%となった。</p>